

兵庫県におけるカワウおよび サギ類のコロニー調査報告

研究グループ 奥野俊博

「コウノトリ」158号（2007年6月発行）でお知らせしましたように、昨年度に兵庫県立人と自然の博物館（以後、ヒトハクと表記します）からカワウとサギ類のコロニーの県内分布調査の依頼を受けました。その調査結果の概要を報告します。詳細については、ヒトハクにおいてホームページ（<http://info.hitohaku.jp/>）等で逐次公表されるでしょう。



カワウとサギ類の多くは集団営巣する習性があり、湖沼や川岸、沿岸域等、水辺に近い樹林帯に多くの個体が集まってコロニー（集団繁殖地）を形成します。昔は彼らのコロニーが人の生活を脅かすことなく共存できていましたが、近年、人の生活圏の広がりにつれてコロニーと人との距離が短くなり、繁殖期の雛の鳴き声や悪臭、糞害、あるいは湖沼河川における漁業権対象種への食害などで住民との軋轢を生じ、しばしば有害鳥獣駆除の対象とされて追われるようになってきました。

人と野性動物の共存のあり方を探るための基礎資料を得るため、県内におけるサギ類とカワウのコロニーの分布を明らかにすることがヒトハクの依頼の趣旨でした。

兵庫県は、一級河川と二級河川を合わせて673の河川と南西部を中心に約44,000にのぼる全国最多のため池を有する水辺環境に恵まれた県ですが、そこを餌場としているカワウやサギ類のコロニーの県内の分布は明らかになっているとは言えず、各地域で散発的に住民との軋轢が発生した際にその存在が知られるのが現状です。

そこで、コロニーの所在地について情報を収集するために、「コウノトリ」158号で情報提供をお願いしました内容のアンケート調査を支部会員やヒトハク関係者を対象に実施し、45名の方々から情報をいただきました。

その情報を元に調査スタッフが現地へ赴き、コロニーの位置と規模、構成種、植生、周辺環境等を確認しました。また、確認調査以外に新たなコロニーの探索にも努め、2007年の繁殖期と2008年の繁殖行動開始後3月末日までに現存するコロニーとして69ヶ所、過去に消滅したコロニーとして29ヶ所を収録しました。表1にコロニーの存在が確認された地域と市および郡を示します。

表1 コロニーの存在が確認された「地域」と「市・郡」

地域	市・郡
摂津	三田市、猪名川町、宝塚市、川西市、神戸市、伊丹市、芦屋市、西宮市、尼崎市
東播磨	多可郡、西脇市、加西市、加東市、小野市、加古川市、三木市、加古郡、高砂市、播磨町、明石市
中播磨	神埼郡、姫路市
西播磨	宍粟市、佐用郡、赤穂郡、赤穂市、相生市、たつの市、揖保郡
丹波	丹波市、篠山市
但馬	美方郡、豊岡市、養父市、朝来市
淡路	淡路市、洲本市、南あわじ市

また、現存するコロニーの数を地域別に表2に示しました。

カワウは県内で多数見られますがコロニーは少なく、サギ類と混在して繁殖しているコロニーを含めて7ヶ所しか見つかりませんでした。その7ヶ所のうち伊丹市の昆陽池のコロニーが他に卓越して規模が大きく、約860巣がカウントされましたが、他は100巣以下の規模でした。昆陽池では1979年にゴイサギがコロニーを形成し始め、2002年にはコサギ、ダイサギ、アオサギを含む巨大規模のサギのコロニーでしたが、1996年にカワウ2巣の営巣をきっかけに多数のカワウが進出してきたこととサギの営巣木が伐採されたことで影響を受けてサギ類の営巣数が減少し、2007年には完全にカワウだけの単独コロニーになりました。

図1にカワウのコロニーの県内分布を示

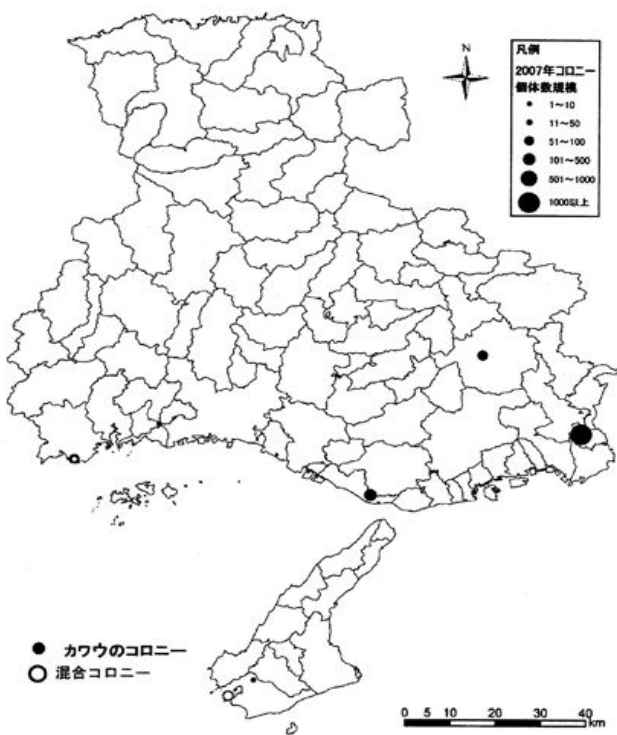


図1 カワウのコロニーの県内分布

表2 地域別現存コロニー数 (2007.5~2008.3)

地域	カワウ	サギ類	混合	合計
摂津	2	10		12
東播磨	1	13		14
中播磨		5		5
西播磨	1	10	1	12
丹波		5		5
但馬		16		16
淡路		3	2	5
合計	4	62	3	69

註) 混合: サギ類とカワウが混在して営巣しているコロニー

しました。図の区画表示は、2004年1月時点の旧市町の行政区画です。表示のマーカールの大きさはそのコロニーを形成しているカワウの成鳥の個体数規模をイメージしています。

図から明らかのように、県北部にはコロニーが過去を含めて確認されませんでした。円山川ではよく見ますが、隣接の府県で繁殖している個体かも知れません。

淡路島では、南あわじ市の大園島と淳仁天皇陵にサギ類との混合コロニーとして確認されました。淳仁天皇陵は数が少なく、3巣でした。

次にサギ類のコロニーですが、65ヶ所で確認され、多くは30巣以下の小さな規模のコロニーでした。図2にサギ類のコロニーの県内分布を示しました。

図2では、サギのコロニーが県の東側で県の南と北がつながっているように見えます。加古川水系と武庫川水系が丹波地域まで延び、そこから北の円山川水系に近いため、南北の水系に沿ってコロニーが点在しているためと考えられます。一方、中央から西側の中間部分に空白が目立ちますが、播磨地域北部から但馬地域南部に至る中央山地は川の流れが速く、サギ類の採餌に適した環境が少ないことからコロニーが見つからないこと



を示していると思われます。

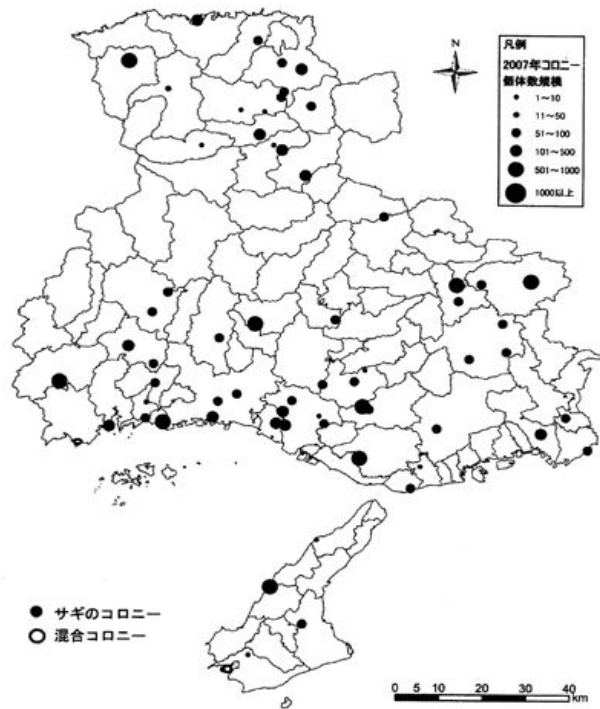
表3にアオサギだけが繁殖期に入った2008年3月に見つかった6つのコロニーを除く63ヶ所について、地域別に種別コロニー数を示しました。

表3の「コロニー数」は、同じコロニー内に複数の種がいる場合はその種ごとに集計しました。「単独コロニー」は、左の「コロニー数」のうち、コロニー構成種が当該の1種のみであったコロニー数を示しています。

単独種のみでコロニーをつくる習性が強いのはササゴイで、今回の調査で確認した3ヶ所は、尼崎市の宮前公園、姫路市の市川美化センター、たつの市の中川原公園です。人通りの多い公園の樹木や街路樹に営巣して、住民から公園管理者等に糞害などの苦情が寄せられ、営巣木の刈り込みや伐採の危機にさらされています。

アオサギは、ササゴイを除くすべてのコロニーで営巣し、その県内分布はほぼ図2と同じです。営巣環境の適応能力が高いものと考えられます。また、最も早く繁殖期に入り、9月頃まで子育てをしている個体が観察されることから、他のサギ類より繁殖期が長く、営巣地の選好みも少ないことが近年増加しつつある要因の一つではないかと考えられます。

図2 サギ類のコロニーの県内分布



ダイサギはアオサギに次いで広く分布していましたが、ダイサギだけの単独コロニーは確認されませんでした。

チュウサギも但馬から淡路島まで南北に広く分布していますが、63ヶ所コロニーのなかで12ヶ所しか見られず、少ないことが気がかりです。

コサギは白サギのなかでは最も普通のサギとの認識がありますが、チュウサギと同様に少なく、今回は北部では営巣が見られませんでした。

アマサギもコサギと同様に北部では営巣が見られませんでした。チュウサギ、コサギ、アマサギは比較的大きな規模のコロニーに見

表3 種別コロニー確認数 (2007年)

	コロニー数	単独コロニー
カワウ	7	4
アオサギ	54	22
ダイサギ	26	0
チュウサギ	12	0
コサギ	13	0
アマサギ	10	0
ササゴイ	3	3
ゴイサギ	21	1
県内コロニー	63	

表4 消滅したコロニー

地域	コロニー数	対象市町
摂津	3	尼崎市、伊丹市、三田市
東播磨	9	三木市、小野市、加古川市、稲美町
中播磨	5	姫路市、市川町
西播磨	6	赤穂市
丹波	1	篠山市
但馬	5	朝来市、養父市、豊岡市
淡路	0	
合計	29	

られることから、近年、大きなコロニーができなくなった状況が影響して減少傾向にあるのではないかと推測されます。

ゴイサギはダイサギに次いで広く分布していますが、個体数がずいぶん少なくなっていることを感じます。

以上が現存するコロニーについての概要です。

すでに消滅してしまった過去のコロニーについては、表4に示しましたように29ヶ所の情報を得ました。しかしまだ実態を把握できていないとは言えません。「今は存在していないが、以前100羽以上の規模のコロニーがここにあった」ということをご存知の方は是非、下記にご連絡をお願い致します。

消滅したコロニーの大半は周辺住民からの苦情を受けて、自治体が主導して追い出したことによるものです。1979年には姫路市と赤穂市で猟銃による駆除が行われ、両地域合わせて約400羽が殺された記録があります。あまりにも悲惨な駆除方法に保護団体が強く抗議し、その後は産卵前に放水などで追い出すと方法が各地でとられていま



す。一応悲惨な状況を目にすることは回避できるようになりましたが、追い出されたサギたちは別の場所でコロニーをつくろうとしてまた追い出され、しだいに分散して小さなコロニーになっていくようです。また、子孫を残せず、絶えていく個体も多いことでしょう。早急に共生の道を探る必要があります。

稿を終えるにあたり、情報を提供していただいたヒトハク関係者の皆様、こうのとの郷公園の皆様、当支部会員の皆様、確認調査とデータ処理に係わっていただいた皆様に深謝致します。

情報を提供していただいた皆さん

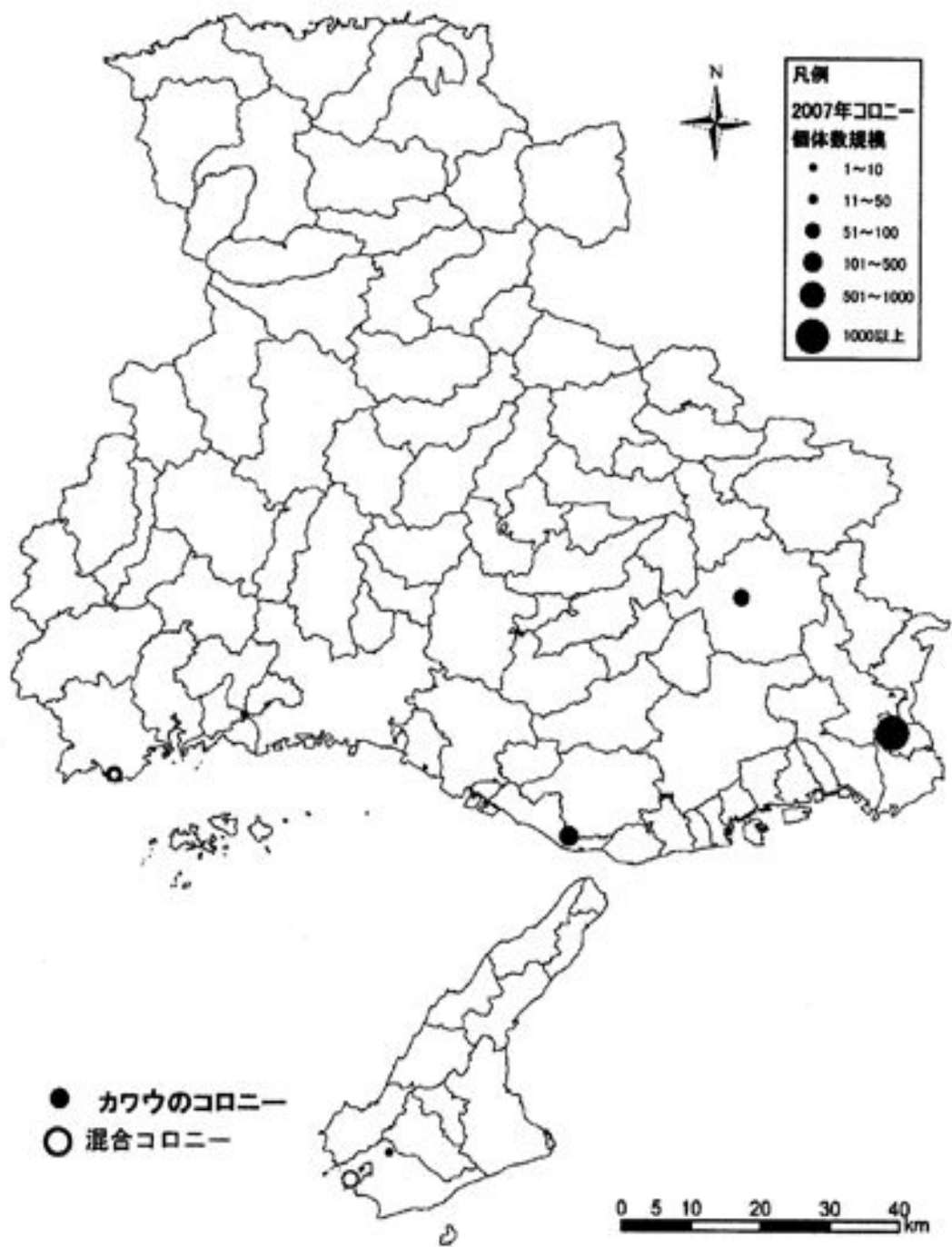
網中 勇二	池口 和三	石川 修司	稲葉 一明	井上 清仁
岩崎 健二	岩本 和久	内田 智之	内呑 智美	遠藤 菜緒子
大迫 義人	岡本 良平	奥野 俊博	小畑 義之	香川 裕一
片岡 宣彦	金光 士	菊池 由美子	北浦 昌二	久後 英世
重政 慶三	下土 居知子	大封 裕介	高津 一男	高橋 信
工 義尚	竹内 良範	田中 修二	田中 次夫	田中 葉子
西田 昭夫	橋本 清澄	濱崎 愛子	原 昌久	平野 修
本庄 四郎	松重 和太	丸橋 寿夫	溝渕 正昭	三谷 康則
三橋 弘宗	三橋 陽子	三ツ矢 孝	村上 あさ子	渡辺 美郎

確認調査とデータ処理に協力いただいた皆さん

伊賀 文計	池口 和三	岩崎 健二	江崎 保男	遠藤 菜緒子
岡本 良平	奥野 俊博	河藤 昌子	黒木 道子	重政 慶三
下土 居知子	大封 裕介	田中 葉子	中村 圭輔	新田 朋子
原田 恵子	松重 和太			

【消滅コロニー情報連絡先】

奥野 俊博 e-mail: to_bird@coast.ocn.ne.jp
FAX: 078-792-5829



【PDF版おまけ】

図1 カワウのコロニーの県内分布（P7の地図を大きくしたもの）